令和6年度第1回調布市都市計画審議会議事録

令和6年8月23日（金曜日）

午後2時開会

午後3時50分閉会

場所：市役所4階 全員協議会室

出席委員

1 条例第3条第1号委員（1人）

橋田 篤英委員

2 条例第3条第2号委員（3人）

大橋 南海子委員（会長）、岡村 祐委員、小林 新委員

3 条例第3条第3号委員（5人）

青山 誠委員、大野 祐司委員、須山 妙子委員

沼田 亮委員、丸田 絵美委員

4 条例第3条第4号委員（4人）

北多摩南部建設事務所長 出戸 剛委員

調布消防署予防課長 伊藤 茂（渡邊 信夫委員代理）

調布警察署交通課長 岩崎 幸恵（宮坂 信孝委員代理）

多摩建築指導事務所長 茂木 竜一委員

案件

付議第1号 調布都市計画生産緑地地区の変更について（まちづくり推進課）

諮問第1号 特定生産緑地の変更について（まちづくり推進課）

報告第1号 「映画のまち調布」の推進に向けた土地利用方針について
（まちづくり推進課）

報告第2号 緑ヶ丘二丁目地区地区計画の変更について（まちづくり推進課）

報告第3号 多摩川住宅地区地区計画の変更について（まちづくり推進課）

報告第4号 調布都市計画道路3・4・31号西調布南口線の都市計画変更の検討状況について（まちづくり推進課）

○事務局（吉池） それでは、定刻前ですが、皆様おそろいですので、ただいまから令和6年度第1回調布市都市計画審議会を始めさせていただきます。

本日は、御多忙の中、御出席を賜り、誠にありがとうございます。

審議会に先立ちまして、新委員の委嘱を行います。

調布市都市計画審議会条例第3条第4号に掲げる関係行政機関からの委員である東京都多摩建築指導事務所長と調布警察署長が代わられております。

また、審議会条例第3条第2号に掲げる学識経験者であります調布市商工会選出の渡部委員から委員の辞職願の提出がありましたことから委員の交代がございます。

新たに委員になりました方に委嘱状をお渡しいたします。本来でしたら市長の長友からお渡しすべきところですが、あいにく出席がかないませんでしたので、副市長の今井からお渡しいたします。

なお、調布警察署長の宮坂委員におかれましては、他の公務で欠席のため、交通課長の岩崎様に代理でお渡しいたします。

また、調布市商工会選出の秋沢委員におかれましては、本日、急遽欠席となりましたので、後日、事務局からお渡しさせていただきます。

それでは、お名前を順番にお呼びいたしますので、大変恐縮ですが、自席にて御起立をお願いいたします。

（委嘱状授与）

どうもありがとうございました。

それでは、副市長の今井から開会の御挨拶を申し上げます。

○今井副市長 改めまして、皆様、こんにちは。副市長の今井でございます。本年4月に副市長に就任いたしました。

本日は、令和6年度第1回調布市都市計画審議会に御参集いただきまして、誠にありがとうございます。本来ですと、市長の長友から御挨拶を申し述べるところでございますが、あいにく本日は出席がかないませんでしたので、私から一言御挨拶を申し上げます。

都市計画審議会、もとより都市の健全な発展、秩序ある整備に向けて、専門的な知見や、それぞれの委員のお立場からの御意見を賜りまして、様々な事項に御審議に当たっていただいております。

本日も付議事項が1件、諮問事項が1件、報告事項が4件と多数の審議事項、報告事項があります。今、調布市、躍動的なまちづくりが進展しておりますけれども、中心市街地だけでなく各地域のまちづくりが本日の議題となっております。バランスのよい都市の発展、各地域の住民の皆さんの発意を受けて、各地域の発展に資するいろいろな御意見を賜りたいと存じておりますので、どうぞよろしくお願ひします。

大橋会長をはじめ、各委員には引き続きよろしくお願ひします。また、本日委嘱させていただきました新たな委員お二方にもどうぞよろしくお願ひいたします。それでは、本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

○事務局（吉池） 続いて、新たに委員となられました方から一言御挨拶をお願ひしたいと思ひます。

初めに、宮坂委員におかれましては、本日、代理出席いただいております岩崎様、よろしくお願ひいたします。

○岩崎代理 調布警察署長・宮坂の代理で参りました交通課長の岩崎と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

○事務局（吉池） 続きまして、茂木委員、よろしくお願ひいたします。

○茂木委員 ただいま御紹介いただきました多摩建築指導事務所長の茂木でございます。本年4月から着任してございます。

多摩建築指導事務所では、八王子市、町田市を除く多摩地域の開発指導、また、調布市さんほか合計11市を除く多摩地域の建築指導、建築確認を行っている部署でございます。今回から審議会委員として参加させていただくことになりました。委員として精いっぱい職責を果たしていきたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

○事務局（吉池） ありがとうございます。

ここで副市長の今井におきましては、退席させていただきます。

○今井副市長 どうぞよろしくお願ひします。

○事務局（吉池） 続きまして、調布市商工会選出の渡部委員の御退任に伴いまして、会長職務代理者が不在となっておりますので、会長職務代理者を選出させていただきます。調布市都市計画審議会条例第5条第3項の規定により、会長があらかじめ指名することとなっております。

大橋会長からは、事前に調布市商工会選出の秋沢委員を指名いただいております。秋

沢委員からは御承諾をいただいております。

○大橋会長　　ということで、本日、急遽欠席になりましたけれども、会長職務代理者を商工会の副会長であります秋沢委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

では、そうさせていただきます。

○事務局（吉池）　　ありがとうございました。

それでは、これより審議に入らせていただきます。初めに、資料の確認をお願いいたします。

まず、事前送付資料の確認をさせていただきます。

付議第1号については、議案かがみ、都市計画の案の理由書、調布都市計画生産緑地地区の変更、A3判の計画図全14面、調布都市計画生産緑地地区総括図、資料1、パワーポイント資料となります。

諮問第1号については、議案かがみ、特定生産緑地の変更、調布市特定生産緑地計画図、調布市特定生産緑地総括図、資料1、パワーポイント資料となります。

報告第1号については、議案かがみ、パワーポイント資料となります。

報告第2号については、議案かがみ、パワーポイント資料となります。

報告第3号については、議案かがみ、パワーポイント資料となります。

報告第4号についても、議案かがみ、パワーポイント資料となります。

続いて、本日、机上に配付させていただいた資料です。まず、席次表、それから本日は追加差し替え資料が多くて申し訳ありませんが、報告第1号の追加資料として、第1回「映画のまち調布」の推進に向けたモデル地区に関するまちづくり懇談会開催結果概要がA4とA3のホチキス留め資料。

報告第2号の追加資料として、報告第2号、参考資料、現行の緑ヶ丘二丁目地区地区計画図書がA4で3枚のホチキス留めとなります。

報告第3号の差し替え資料として、パワーポイント資料の報告第3号、多摩川住宅地区地区計画の変更について10ページ、追加資料として、変更の地区施設一覧がA4で1枚となります。

報告第4号の差し替え資料として、パワーポイント資料の7ページ、8ページが両面のA4のもの、14ページがA4片面のものとなります。

また、調布市都市計画マスタープラン・立地適正化計画、都市計画図、調布市用

途地域等に関する指定方針及び指定基準，洪水ハザードマップを机上に配付させていただいております。

資料が膨大ですが，お手元におそろいでしょうか。

では，本日の終了時刻ですが，午後3時45分を予定しておりますので，御協力をよろしくお願いいたします。

それでは，大橋会長，よろしくお願いいたします。

○大橋会長　それでは，会を進めさせていただきます。

まず，定足数についてですが，事務局から報告をお願いします。

○事務局（吉池）　長田委員，矢ヶ崎委員，秋沢委員におかれましては，御都合により欠席される旨の御連絡をいただいております。調布消防署長の渡邊委員におかれましては，他の公務のため，予防課長の伊藤様が代理出席されます。同じく，調布警察署長の宮坂委員におかれましては，他の公務のため，交通課長の岩崎様が代理出席されます。お二方からは委任状を御提出いただいております。

つきましては，本日の審議会には欠席3名，出席は代理出席の方を含め13名となりますので，審議会条例第8条第1項に規定する定足数に達しております。

以上です。

○大橋会長　ありがとうございます。定足数に達しているとのことですので，引き続き審議会を進めます。

次に，本日の議案について，非公開とするべき議案があるかどうかについてお諮りします。

議案ですが，付議案件として「調布都市計画生産緑地地区の変更について」の1件，諮問案件「特定生産緑地の変更について」の1件，報告案件として「映画のまち調布」の推進に向けた土地利用方針について」「緑ヶ丘二丁目地区地区計画の変更について」「多摩川住宅地区地区計画の変更について」「調布都市計画道路3・4・31号西調布南口線の都市計画変更の検討状況について」の4件で付議と諮問案件を加えまして，全部で6件となっております。

非公開とする理由がないと思われまますので，公開とすることに御異議ありませんでしょうか。よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

では，そういうことでお願いいたします。

次に，本日の傍聴者の定員ですが，運営規程第10条の規定によりまして，会場

の広さを考慮いたしまして、4人と定めさせていただきます。今日の傍聴者の有無につきまして、事務局から報告をお願いします。

○事務局（吉池） お1人、傍聴希望者がいらっしゃいます。

○大橋会長 入っていただくようお願いいたします。

（傍聴者入室）

○大橋会長 傍聴者の方をお願いいたします。運営規程の14条に遵守事項が記載されておりますので、御協力のほどよろしくをお願いいたします。

それでは、審議会を再開いたします。

まず、議事の順番ですけれども、運営規程の8条に書いてありますが、1つ目に議題の宣言、2つ目に案件担当者からの議案説明、3つ目に議案に対する質疑応答、4つ目に討論、最後に議案についての可否の採決という順番で進めたいと思います。限られた時間ですので、御協力のほどよろしくをお願いいたします。

特に本日は案件数が多いので、市の担当者の方に申し上げますが、案件の説明、答弁に関しましては、簡潔にかつ要領よくお願いしたいと思います。よろしくをお願いいたします。

事務局から付議第1号の議題の宣言をお願いします。

（事務局朗読）

担当から説明をお願いいたします。

○坂本主査 まちづくり推進課の坂本です。よろしくお願いします。

○岡安主任 まちづくり推進課の岡安と申します。よろしくお願いします。

○星野担当課長 まちづくり推進課の星野です。よろしくお願いします。

○岡安主任 それでは、付議第1号について御説明させていただきます。表紙をめくっていただきまして、初めに都市計画の案の理由書です。

生産緑地地区は、市街化区域内にある農地等で、公害または災害の防止、農業と調和した都市環境の保全等に役立つものを計画的に保全し、良好な都市環境の形成を図るために定めた地域地区です。

平成3年の生産緑地法の改正以降、生産緑地地区として指定した地区のうち、その一部が道路や公園等の公共施設用地となった地区または主たる農業従事者の相続の発生による買取り申出に伴う行為の制限解除により、生産緑地の機能を維持する

ことが困難となった生産緑地地区の一部を削除するものです。

詳しい内容については、資料の最後にありますA4横の右上に資料1とあります資料に沿って御説明させていただきます。なお、右下にページ番号を記載しております。

資料1の2ページをお願いいたします。1、変更理由は、公共施設等の設置または買取り申出に伴う行為の制限解除により、生産緑地の機能を維持することが困難となった生産緑地の一部を削除するものです。

2、変更概要としましては、削除する地区として生産緑地法第8条第4項に基づく公共施設等の設置に伴うものが4地区、約0.179ha、主たる農業従事者の死亡による買取り申出によるものが25地区、約2.447ha、合わせて29地区、約2.626haとなっております。

なお、買取り申出により削除する地区の中に市が買い取って活用する地区がございますので、後ほど御説明いたします。

3ページをお願いいたします。2ページで御説明しました理由により、現在400地区、約106.89haであった生産緑地地区につきましては、395地区、約104.32haとなり、面積は昨年度から約2.57haの減少となります。地区数は昨年度から5地区の減少となります。

なお、減少した面積が2ページ目で御紹介した面積と異なっておりますが、これは精査により約0.052haの面積の増加があったため、これを2ページ目の面積から引きまして約2.57haの減少となります。

また、地区全体を廃止する地区は7地区ございますが、地区分割が2地区発生したため、実際に減少した地区は5地区となります。

4ページを御覧ください。続いて、削除する地区を御説明いたします。まず、公共事業に伴う削除として4地区、合計約0.179haとなります。次ページ以降、地区ごとに御紹介いたします。

なお、このほかに買取り申出が出された生産緑地を市が買い取って活用する地区がございます。

5ページをお願いいたします。資料図面上の青い矢印は、写真の撮影方向を示しています。また、写真上部に削除理由と削除面積を記載しています。地区番号146番は地区の一部削除です。市道の整備のため、市が一部を買収いたしました。

続いて、6ページをお願いいたします。地区番号247番は地区の一部削除です。

開発行為に伴う市道の築造によるものです。

続いて、7ページをお願いいたします。地区番号531番は全削除、地区番号387番は地区の一部削除です。神代公園の整備のため、東京都が買収しております。

続いて、8ページを御覧ください。主たる農業従事者の死亡もしくは生産緑地の指定期間満了のため、買取り申出が出されたことによる削除箇所です。合計25地区、約2.447haとなります。

9ページをお願いします。生産緑地の買取り申出から都市計画変更の告示に至るまでの手続を御説明いたします。生産緑地法第14条において、買取り申出から3か月以内に所有権の移転が行われなかった場合は、行為制限が解除、すなわち生産緑地としての規制が解除される規定となっているため、都市計画変更の告示前でも宅地造成や建築物の新築が可能になります。今回の都市計画審議会へ付議している案件については、令和5年6月から令和6年3月までに買取り申出が出されたものとなるため、行為制限の解除があつてから、資料右側の都市計画法に基づく手続、都市計画としての生産緑地地区が削除されるまで、最大約1年半が経過しております。

10ページをお願いいたします。以降は削除する地区を地区ごとに御説明いたします。地区番号30番は地区の一部削除になります。行為の制限解除は令和6年6月7日です。

続いて、11ページをお願いいたします。地区番号41番、55番は地区の全削除になります。行為の制限解除日は令和6年5月26日です。地区番号41番の一部については、都市計画道路の用地として市が買い取っております。

続いて、12ページをお願いいたします。地区番号83番は地区の一部削除です。行為の制限解除は令和6年6月1日です。

13ページをお願いいたします。地区番号115番と500番は地区の一部削除です。行為の制限解除は115番が令和6年1月30日、500番は令和6年1月23日です。

なお、115番については今回の一部削除によって物理的な一団性が失われたため、地区分割を行い、新たに地区番号585番を付番しております。

続いて、14ページをお願いいたします。地区番号205番と地区番号470番は地区の一部削除です。行為の制限解除は205番が令和6年4月4日、470番が令和5年9月22日です。470番は農の風景育成地区内であり、市が買取りを

しております。今年度から農協，地元農家と協働で，市民を対象にした畑での野菜の作付，収穫体験等を実施する場として活用されております。

15ページをお願いいたします。地区番号278番と283番は地区の一部削除です。行為の制限解除は278番は令和6年6月25日，283番は令和6年3月8日となっております。

続いて，16ページをお願いいたします。地区番号354番，376番，377番は地区の一部削除，364番は地区の全削除です。行為制限解除は354番が令和6年6月15日，364番が令和5年9月20日，376番が令和6年2月21日及び令和5年12月4日，377番が令和5年10月24日です。376番については，別の所有者からそれぞれ買取りの申出があったため，①と②の区域でそれぞれ行為制限の解除日が異なっております。また，376番の①の区域の一部削除に伴い，物理的な一団性が失われたため，地区分割を行い，新たな地区番号として586番を付番しております。

続いて，17ページをお願いいたします。地区番号361番は地区の一部削除です。行為制限解除は令和5年10月28日となっております。

続きまして，18ページをお願いいたします。地区番号544番は地区の一部削除です。行為の制限解除は令和6年3月7日です。

19ページをお願いいたします。地区番号390番，403番，416番は地区の一部削除です。行為の制限解除は390番と403番が令和6年2月21日，416番が令和5年12月26日です。

20ページをお願いいたします。地区番号450番は地区の全削除，地区番号457番は地区の一部削除です。行為の制限解除は450番が令和6年5月7日，457番が令和5年10月11日です。

21ページをお願いいたします。地区番号534番と571番は地区の一部削除，537番は地区の全削除です。行為制限解除は534番と571番が令和6年3月26日，537番が令和6年1月12日です。537番については市が買い取り，史跡下布田遺跡として整備予定となっております。

22ページをお願いいたします。地区番号568番は地区の全削除です。行為制限の解除は令和6年2月17日です。

続いて，23ページをお願いいたします。本ページでは，今まで御説明した生産緑地の削除地区が都市計画マスタープラン，緑の基本計画において，どのような位

置づけのエリア内に含まれているかを掲載しております。特段の位置づけがない生産緑地は掲載しておりません。地区番号の表示に模様がついている地区については、先ほど御説明したとおり、市が生産緑地を買い取った地区となっております。

続いて、24ページをお願いいたします。こちらは平成4年度以降の生産緑地及び特定生産緑地の推移を示したグラフです。緑のグラフが生産緑地地区、オレンジ色のグラフが特定生産緑地の地区数と面積数を示しております。3ページで御説明させていただいたとおり、前年度と比べると生産緑地の地区数は5地区の減少、面積は約2.57haの減少となっております。面積は年々減少しており、地区数についてもおおむね減少傾向となっております。

生産緑地地区の減少に対する取組といたしまして、まちづくり推進課においては、平成30年度の条例改正により生産緑地地区に指定可能な最低面積を引き下げております。そのほか生産緑地、特定生産緑地制度のさらなる周知、生産緑地の買取り活用の検討や、営農ができなくなった農地を賃借する制度の活用など、関連部署とも連携を図りながら取組を進めております。

また、下部の表は生産緑地地区の面積に占める特定生産緑地の割合を整理したものです。特定生産緑地の指定を開始した令和4年度が87.8%、昨年度が約91.1%、今回が約91.5%となっております。

25ページをお願いいたします。最後に、手続について御説明いたします。令和6年6月に東京都知事との協議を行い、6月26日付で東京都から意見なしとの協議結果通知を収受しております。その後、令和6年7月16日から7月30日まで、都市計画法第17条に基づく都市計画の案の縦覧を実施しましたが、窓口縦覧者はなし、意見書の提出はありませんでした。本日の都市計画審議会の審議を経て、今後は令和6年9月20日に決定、告示を行う予定です。

以上で御説明を終わります。御審議のほど、よろしくをお願いいたします。

○大橋会長　　ありがとうございました。明快な説明であったと思います。引き続きまして、この議案に対する質疑応答を行います。御質問のある委員の方は挙手をお願いいたします。よろしいですか。

（「なし」の声あり）

それでは、御質問がないようですので、討論に入りたいと思います。御意見はありますでしょうか。資料の中には載っていなかったのですが、先ほど報告の中で、生産緑地が2.57ha減りましてということで、特定生産緑地も減る形になった

のですけれども、減少面積はなかなか減らないという実態だと思うのですが、それについて補足で、こんなことをやっております、こんなことを今後ともやりたいと思いますと4つか5つお話しいただいたのですが、何かほかに御意見等ありますでしょうか。なければ採決に入りたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「なし」の声あり)

それでは、討論を終えまして本付議議案に対する採決を行います。付議第1号を了承される委員の方は挙手をお願いいたします。

(賛成者挙手)

満場一致ということで、原案のとおり決定することといたします。

なお、議決書につきましては、事務局をお願いいたします。

以上で付議案件は終わります。

○事務局(吉池) 担当者の入替えをさせていただきますので、少々お待ちください。

(説明者入替え)

お待たせいたしました。会長、お願いいたします。

○大橋会長 事務局から諮問第1号の議題の宣言を行ってください。

(事務局朗読)

担当から御説明をお願いします。

○白石主任 まちづくり推進課の白石と申します。よろしくお願いいたします。

諮問第1号「特定生産緑地の変更について」、御説明いたします。それでは、お配りしております資料1に沿って御説明させていただきます。表紙をおめくりいただきまして、右下のページ番号2ページを御覧ください。

まず、制度の内容を御説明いたします。特定生産緑地制度は、生産緑地の所有者等の意向を基に、市が当該生産緑地を特定生産緑地として指定する制度です。

生産緑地に指定した農地は、指定から30年が経過すると、いつでも生産緑地の買取り申出が可能です。しかし、当該生産緑地を30年が経過する前に特定生産緑地として指定した場合は、30年経過から加えて10年間は買取り申出ができなくなります。その後、所有者の意向を踏まえ、繰り返し10年延長できます。

3ページを御覧ください。特定生産緑地を選択すると、10年間は買取り申出ができませんが、納税猶予や固定資産税等の取扱いは生産緑地と同様に継続されます。また、死亡、故障等の場合については、従来どおり随時買取り申出が可能です。

一方、特定生産緑地を選択しない場合は、指定から30年経過後は、いつでも買取り申出ができますが、特定生産緑地の指定を受けることができなくなります。固定資産税等も5年後には宅地並み課税の税額まで段階的に上昇します。また、納税猶予を受けている生産緑地は、現在受けている納税猶予を現世代の方に限り継続することになり、次世代の方は納税猶予を受けることができません。

続いて、4ページ目、5ページ目は、特定生産緑地の指定対象に関する法律や要綱を掲載しております。これらを踏まえて、適正に管理がなされている生産緑地で所有者からの申請があった区域について、特定生産緑地に指定します。

5ページ目を御覧ください。要綱上では、赤字で示している箇所該当する場合は、特定生産緑地に指定しないものと記載されております。今回の特定生産緑地の変更に関しては、赤字で示している箇所該当するということで削除となった箇所はございません。今回は主たる農業従事者の死亡による買取り申出に伴う削除が削除理由の主な要因であります。

続きまして、6ページ目を御覧ください。申請から指定までの流れとなります。今年度は、今年の9月28日に申出基準日を迎える平成6年度指定の生産緑地について、特定生産緑地への新規指定を行います。申出基準日である9月28日から特定生産緑地としての効力が発生します。また、それと併せて令和4年度、5年度に既に指定した特定生産緑地について、先ほど付議させていただきました生産緑地地区の変更による解除などについても、今回諮問いたします。

7ページ目を御覧ください。諮問概要です。こちらは先ほど付議した生産緑地地区の変更を反映した地区数と面積です。市全体の生産緑地地区は395地区、約104.32haです。そのうち特定生産緑地制度の対象となる新法分は390地区、面積は約102.10haです。

太枠内の1つ目の枠を御覧ください。平成6年度指定の生産緑地地区の所有者に特定生産緑地指定の意向確認を行い申請を受け付けた結果、2地区、約0.10haの新規指定となりました。こちらは平成6年度指定の生産緑地のうち100%の指定となっています。

2つ目の枠を御覧ください。令和4年度、5年度に指定した特定生産緑地については、先ほど付議した生産緑地地区の削除等に伴い、371地区、約95.31haに減少しました。

これらにより特定生産緑地の指定合計につきましては、下に書かれておりますと

おり 373 地区、面積は約 95.41 ha となります。

こちらの 373 地区という地区数につきまして、下部に米印をつけさせていただいているのですが、こちらを御覧ください。特定生産緑地の場合、指定年度ごとに地区番号が付されます。例えば、330 番については 2022 年度に指定したものは、西暦の下 2 桁を取って 330—22、2024 年度に指定するものは 330—24 となります。これにより特定生産緑地の 373 地区を生産緑地地区の地区数で数え直すと 361 地区となります。

続きまして、8 ページ目を御覧ください。7 ページの合計面積などについて、お配りしております計画書との整合を示しております。計画書においては合計面積を記載しておりませんが、こちらの資料上段の計画書においては参考として一番下の行に合計欄を設けております。青と緑色で着色した部分でございます。

まず、変更内訳の新規指定区域について、表中の面積を合計すると約 1,000 m² となります。資料下段の右側の青色の表を御覧ください。そこから通し番号 12 の精査面積マイナス約 10 m² を合計して約 990 m²、こちら約 0.10 ha が最終的な新規指定区域の面積となります。

次に、変更内訳の解除区域について、表中の面積を合計すると約 2 万 200 m² です。資料下段、右側の緑色の表を御覧ください。そこから通し番号 1 番、8 番、9 番、10 番、19 番、20 番、25 番の精査面積約マイナス 180 m² を合計して、こちらが面積としては約 2 万 20 m²、約 2.00 ha が最終的な解除区域の面積となります。

最後に、地区数です。資料右下の白色の表を御覧ください。全解除区域が 5 地区であります。分割につきましては、通し番号 6 から 29、17 から 30 でそれぞれ既に指定している特定生産緑地の一部を分割したものが新たな地区となるため、2 地区の増加となります。その結果、3 地区の減少という形となっております。

9 ページを御覧ください。こちらはお配りしております計画書の見方を記載しております。計画書で灰色にした行があります。こちらは今回変更しませんが、参考として載せている行です。

例えば、地区番号 330 番について、生産緑地地区の都市計画決定面積は 2,120 m² です。一方、その中の平成 4 年度指定分の特定生産緑地 330—22 番の面積が 1,630 m²、今回指定する平成 6 年度分の特定生産緑地 330—24 番の面積が 500 m² です。1 の位を四捨五入する関係で 330—22 と 330—24 の合

計面積が2, 130㎡となり、生産緑地地区の面積を上回ってしまうため、330—24の面積を490㎡、10㎡の精査をしております。

続きまして、10ページを御覧ください。計画図の見方を記載しております。凡例のとおり特定生産緑地の新規指定区域をピンク色で明示するなどしております。

続きまして、11ページ目を御覧ください。計画図でピンク色で示した新規指定区域について、赤矢印の方向から撮影した現地の写真を掲載しております。それぞれ適正に管理がなされていることを確認しております。

続きまして、12ページ目を御覧ください。今後のスケジュール（案）です。今回諮問する平成6年度指定の生産緑地については、令和4年、5年度に指定した特定生産緑地の変更と合わせて9月28日の申出基準日までに指定、変更の告示を行います。

平成7年度指定の生産緑地については、令和7年3月末に指定申請の受付を締め切り、生産緑地地区の変更を反映した後に10月頃、都市計画審議会にて指定案を諮問する予定であります。その後、11月7日の申出基準日までに指定、変更の告示を行う予定となっております。

説明は以上となります。

○大橋会長 ありがとうございます。引き続きまして、この議案に対する質疑応答を行います。御質問のある方は挙手をお願いいたします。よろしいですか。（丸田委員の挙手に対して）どうぞ。

○丸田委員 御説明ありがとうございます。丸田です。

一番最後の今後のスケジュール（案）の一番下の米印のところ、適正管理がなされていない場合は、特定生産緑地に指定できませんという項目があつて、それは当然だろうと思うのですが、私も農業委員を務めたことがありまして、パトロールがあるのです。やはり放棄されているようなところも多々あり、その都度、申入れ書というのでしたっけ、ちゃんと管理してくださいねみたいなものを送っていくことがあつて、ただ、持ち主さんにも都合があると思つて、いっぱいいっぱいの中で、ここまでは管理できるけれども、こっちまでは手が回らないという場所も多々あるのかなと判断はしているのです。

1個目の付議第1号のほうで、緑地が減ってきているというところがありまして、生産緑地は非常に貴重な緑地であるわけなのです。そういうところの緑を何とかして市も応援して残していかななくてはいけないと思うのですけれども、一番最後の米

印の小さいところに引っかけて、市の方向性というか、どのように捉えられているのかをお聞かせいただきたいと思います。

○大橋会長　先ほど付議案件のほうで、補足で説明していただきましたよね。あれをもう一度、御説明願えますか。今の丸田委員の質問に対しまして、先ほど特定のほうは1.9haの減少、生産緑地は2.75haの減少ですが、それに対して今後市としてはと早口でさささと述べたので、ちょっと分かりづらかったと思うので、同じ内容をもう一度お話しいただけますか。

○岡安主任　生産緑地の減少に対する取組としまして、先ほど幾つか御説明させていただいたのですけれども、まず1点目が、まちづくり推進課として都市計画の面から申し上げますと、生産緑地に指定可能な面積が今まで500㎡だったところ、300㎡に引き下げるということをしております。

そのほかにも、そもそも特定生産緑地制度というのが近年開始された制度になりますので、その部分は農協さんとも連携しながら、農家さんに制度の御説明を何度か差し上げてきたところになっております。

そのほかにも、買取りの活用の検討ですとか、営農ができなくなってしまった農地を貸借するような制度の活用といったところなど、関連部署とも連携を図りながら取組を進めているところでございます。

先ほどの適正管理につきましても、当然、生産緑地については、休耕地であっても状況がそのように判断できれば指定は継続するというような基準を持っておりますので、農業従事者さんとお話をさせていただきながら、実際の管理状況などを照らし合わせて、今後も生産緑地として営農を続けていかれたいという御意向があれば、当然そこの御事情も聞いた上で、特定生産緑地に移行するかどうかは判断するということになります。例えば、一度見に行って管理状況があまりよくなかった場合でも、きちんと農家さんとは対話をしながら指定に向けて検討を進めていくという流れになっております。

○大橋会長　あと補足はありますか。

○元木課長　農業委員会事務局長の元木と申します。よろしく申し上げます。

先ほど農地パトロールの件があったと思うのですけれども、農業委員会事務局では年2回ほど農地パトロールを行っております。その中で農地の指導を行うのですが、おっしゃるとおり病気、入院しているとか、管理したくてもなかなかできない農家がいらっしゃるのが現状でございます。

その中で、この米印は説明がちょっとあれだったかもしれないですけども、この意味はあくまでも、そういう中で事情を聞く、また指導する、それでも本人が全く改善する気がないと。多分、そういう特殊な事情をもつての指定の判断を協議する話になると思って、そこら辺は農業委員会事務局におきましても、農地パトロールの中で事情を聞いた上で、しっかり協議や配慮のお話をして、その中でどうするか判断を進めるということなので、決してなされていないからすぐ指定できないというわけではないということは御理解いただければと思います。

以上でございます。

○丸田委員 丁寧に御説明いただきましてありがとうございます。500㎡が300㎡になったというのは承知しておりまして、それを用いて、うちの近所も生産緑地にもう一回なったという話も聞いておりますので、ぜひそういう説明をお願いしたいと思います。

先ほど買取りの活用とか営農支援もそうかもしれないのですけれども、買取りは、例えば民間が大型マンションなどで開発をするという、どうしても路線価の問題もあって、差額があつてなかなか難しい部分でもあるかなと思うのですが、しっかりと日頃より寄り添っていただいて、営農の支援なりなんなりして、緑地の保全を整えていっていただきたいと思います。よろしく願いいたします。ありがとうございました。

○大橋会長 御意見も入っていたようですけれども、ありがとうございます。

討論に移りたいと思いますが、御意見等ありましたら。なお、今の発言は意見として受け入れたいと思います。ほかに御意見ありますでしょうか。よろしいですか。

(「なし」の声あり)

ないようですので、議決を行います。本議案を了承される委員の方は挙手をお願いいたします。

(賛成者挙手)

満場一致ということで、これを了承することといたします。

なお、答申書につきましては、事務局に作成をお願いいたします。

これで2案終わりました、報告……

○事務局(吉池) 担当者の入替えをさせていただきます。

(説明者入替え)

○大橋会長 それでは、次に報告第1号「映画のまち調布」の推進に向けた土

土地利用方針について」に移ります。担当から御説明をお願いいたします。

○井出技師 まちづくり推進課の井出と申します。よろしくお願いいたします。

報告第1号「映画のまち調布」の推進に向けた土地利用方針について、御説明いたします。

本報告は、昨年度策定しました「映画のまち調布」の推進に向けた土地利用方針についての御報告と、その方針に基づいてモデル地区を選定した御報告、そのモデル地区の土地利用イメージ（案）を作成し、まちづくり懇談会を実施した御報告でございます。

表紙をおめくりいただきまして、右下ページ番号1ページ目から4ページ目までが「映画のまち調布」の推進に向けた土地利用方針の概要版でございます。

1ページ目、上段ですが、土地利用方針を策定した背景・目的及び市街地形成と映画・映像関連産業の変遷でございます。

調布市では、昭和8年に日本映画株式会社多摩川撮影所が設立されて以来、映画・映像関連事業の集積が進み、東洋のハリウッドと称されるなど映画文化の発信地として土地利用が進んだ歴史がございます。

現在においても、事業所の集積や地域資源を活用した地域経済活性化や観光振興を目指して映画のまち調布を積極的に推進し、特色ある取組の展開を図っております。

今後も映画のまち調布として市の魅力を高めていくためには、映画のまち調布を支える映画・映像関連事業所の立地維持、誘導を進めていく必要がありますが、用途地域等の土地利用規制によって、映画・映像関連事業所の施設更新による維持や機能拡大が課題となっていることが判明しております。

また、都市空間の活用や市街地の更新、多様な主体と連携したまちづくりの検討において、特色ある地域資源を生かした取組をまちづくりに展開することが求められております。

こうした課題に対応するため、調布市基本計画や調布市都市計画マスタープランにおいて位置づけた施策等を具現化し、「映画のまち調布」の推進に向けた土地利用の考え方や都市空間の将来像、土地利用制度等の活用に向けた技術的な手法や手順を示すことを目的として、令和6年3月に「映画のまち調布」の推進に向けた土地利用方針を策定し、映画のまち調布にふさわしい魅力あるまちづくりを推進していくこととしております。

続いて、下段ですけれども、本計画の位置づけについてです。令和5年3月に策定した市の最上位計画であります調布市総合計画で、重点プロジェクトとして「映画のまち調布」の推進を掲げております。また、分野別計画で活力ある産業の推進の基本的取組として、特性を生かした地場産業の振興を掲げております。さらに、魅力ある観光の振興の基本的取組として、多様な主体との連携による地域資源を活用したにぎわいの創出や「映画のまち調布」の推進を掲げております。

また、令和5年8月に策定した調布市都市計画マスタープランでは、土地利用に関する基本的な方針として、市を特徴づける歴史資産や映画・映像関連産業等の地域資源を生かした産業振興、観光交流に資する土地利用を保全、誘導し、市の産業を支える工場や事業所などが継続して立地できるよう、周辺住宅地などとの調和を図りながら事業所の操業環境を支える土地利用の保全、誘導を検討していくことを記載しております。

さらに、地域活性化分野では、歴史資産や映画・映像関連産業等の地域資源を生かした地域活性化に取り組み、産業振興や観光交流に資する土地利用の保全、誘導に向けて、地区計画や特別用途地区の活用による土地利用規制の見直しや施設立地を許容する許可制度の活用について検討することや、映画産業などの地域資源をまちづくりに活用し、にぎわいのある活気に満ちたまちづくりを推進することとしております。

上位計画のより詳細な内容につきましては、本日、机上に配付させていただきました追加説明資料のA3の参考資料に記載しております。詳細についてはそちらを御確認いただきまして、事前送付資料の2ページ目を引き続き説明させていただきます。

2ページ目の左側ですけれども、本方針は市内の映画・映像関連企業や市民団体との連携を図りながら、映画・映像をつくる、楽しむ、学ぶをテーマとした「映画のまち調布」のこれまでの特色ある取組を示した上で、「映画のまち調布」の推進に向けた土地利用の基本的な考え方として映画・映像をつくる、楽しむ、学ぶをまちづくりに展開と掲げております。

その取組方針として、①つくるを担う映画・映像関連事業所が引き続き市内に集積し、周辺地域と調和して操業されるように、映画のまち調布にふさわしい土地利用を検討すること。②として、市内各地でつくる、楽しむ、学ぶが複合した多様な取組が展開されるまちづくりを推進することを掲げております。

都市空間の将来像については、次のページでございますが、先に右側の土地利用規制に関する課題について御説明いたします。市内の映画・映像関連事業所にアンケート調査を実施し、今後の事業展開や操業上の課題等を把握いたしました。34社中21社から回答があり、そのうち事業継続を望む事業者は18社の約86%、事業拡大や建て替え意向がありますが、法令等の制限がある事業所は7社の約33%でございます。

現在、市内の約70%は第一種低層住居専用地域や第一種中高層住居専用地域の用途地域となっております。住居専用地域は良好な住環境の保護を目的とするため、土地利用規制が厳しく、現在立地している映画・映像関連事業所の敷地近傍であっても、映画・映像関連事業所の立地が制限されております。

また、第二種中高層住居専用地域、第一種住居地域、第二種住居地域、準住居地域においても、映画・映像関連事業所の施設の種類や規模等により、施設の立地や床面積等の規模の制限がございます。

アンケート結果から、事業継続を望む事業所は多く、建て替えや機能拡大意向のある事業所もございますが、立地している用途地域の種類によっては実施し難い場合があることが分かっております。

今後は映画のまちの推進を支える土地利用を実現していくために、各事業所における今後の具体的な事業展開や建て替え、増改築の意向等を踏まえ、土地利用規制により建て替えや機能拡大が実現できない実態がある事業所については、周辺環境への十分な配慮や環境向上のための対策を講じることを考慮しながら、様々な土地利用制度の活用について検討を進めていく必要があることが分かっております。

1枚おめくりいただきまして、3ページ目でございます。こちらは都市空間の将来像をイメージ図で示しております。南北東西を軸に、つくる、楽しむ、学ぶを都市空間に広げていくイメージでございます。

次に、4ページ目です。ここまで方針や課題を述べましたが、具体的にどうするのかという点について、4つの手法を実現方策として挙げております。特別用途地区による用途規制の緩和、地区計画と合わせた用途地域の変更、地区計画による用途規制の緩和、建築基準法の特例許可の4つを手法として挙げております。

まず、立地を検討する映画・映像関連事業所が建築基準法上のどの用途なのか明確にし、用途規制の課題整理を実施します。その後、周辺環境への配慮事項や地域貢献に資する取組等を検討します。その検討結果や市の上位関連計画等を踏まえて、

先ほど述べた4つの手法を検討してまいります。

下段の今後の進め方としては、事業継続等の土地利用規制の課題や事業継続、「映画のまち調布」の推進、地域のまちづくりへの貢献等の取組を考慮しまして、ルールづくりの必要性を検討し、モデル地区を選定します。

その後、モデル地区周辺住民の方々の意見を踏まえて土地利用イメージを作成します。その土地利用イメージを担保できるよう実現方策で挙げた手法の検討を進めます。

なお、モデル地区以外の映画・映像関連事業所においても必要に応じて土地利用制度の活用を検討します。

また、拠点に位置つけた地域やその周辺では、映画のまち調布に貢献する多様な用途の施設を誘導し、駅広空間等の公共空間を活用したイベント等を実施し、映画のまち調布を生かした取組を進めます。

そして、映画のまち調布以外にも市内の地域資源を組み合わせ、それらを生かしながら観光や交流に資するまちづくりを推進します。この取組においても既存の施設の立地保全や新たな施設の立地を誘導する場合は、施設の特長や周辺地域の状況を踏まえ、本方針の実現方策を参考にして、適切な土地利用制度等を検討し取組を進めます。

ここまでの「映画のまち調布」の推進に向けた土地利用方針の概要でございます。

続いて、モデル地区について御報告いたします。1枚おめくりいただきまして、5ページ目でございます。本方針に基づき、令和6年6月20日に市報及び市ホームページで、モデル地区を2か所選定した旨を公表いたしました。場所としましては、調布市南部の多摩川6丁目、小島町3丁目地区の角川大映スタジオ周辺と染地2丁目地区の日活調布撮影所周辺を選定いたしました。

日活調布撮影所周辺は、既存の敷地をモデル地区としましたが、角川大映スタジオ周辺については、既存スタジオと道路を挟んで北側の敷地も含んでモデル地区としております。角川大映スタジオにおかれましては、この北側の敷地で映画スタジオ事業を拡大したい意向をお持ちでございます。

次に、6ページ目でございます。本地区においては、土地利用イメージを市が作成します。建築物や広場等のおおむねの配置や地域貢献の内容、周辺への配慮すべき事項をイメージとして示し、事業者に対応を求めていきます。

その土地利用イメージ案について、7月26日、27日に実施しましたまちづく

り懇談会で示したものを7ページ目と8ページ目に示しております。懇談会当日の様子につきましては、本日、机上に配付させていただきました追加説明資料に記載しております。

まず、事前送付資料の7ページ目、8ページ目でございますが、各モデル地区で記載の取組を実施していただくことを求めています。

まず、ピンク色で示した映画のまちの推進に資する施設の立地やイベント等の開催を取り組んでいただき、あわせて、青色の周辺住環境への配慮として、音や臭気、光など必要な対策を実施していただきます。また、緑色の緑地の創出やオープンスペースの確保、災害時に一時避難所としての場所の提供など、地域の環境向上に資する取組を実施していただきます。

机上に配付させていただきました追加説明資料についてですけれども、まちづくり懇談会の参加者は2日合わせて計28名で、主な御意見としましては、角川大映スタジオ周辺については、新スタジオの計画は、にぎやかになってよいのではないかという御意見や、日当たりや高さ、規模に配慮してほしいなどの御意見、また、緩和措置ではなく現行基準内で計画できないのかといった御意見をいただきました。

日活調布撮影所周辺については、道路沿いにもコンビニがあったのですが、そのコンビニが便利だったので、そういったものができるとうれしいですとか、そのコンビニ跡地にできる建築物は、高さが高いものが建つのかといった御質問がございました。

事前送付資料に戻りまして9ページ目、最後にスケジュールですけれども、今後9月、11月にもオープンハウスなどを実施し、住民との意見交換を実施してまいります。そして、令和7年1月に説明会を実施し、法定手続に入っていくことを想定しております。

説明としては以上でございます。

○大橋会長　ありがとうございます。御質問のある方は挙手をお願いいたします。たくさんあると思うので、小林さんからどうぞ。

○小林委員　小林でございます。

ちょっと細かいお話なのですけれども、7ページ目の右下のほうに緑環境への配慮という項目があって、敷地内の既存樹木の保全や崖地の植生管理など従前の緑環境と書いてあるのです。あまり中に入ったことないのですけれども、ここは崖地の植生管理みたいなのが行われているのですか。

○大橋会長 回答をお願いします。

○坂本主査 以前は持ち主が、そんなにきれいにされていたかという、そうでもないかなとは思うのですけれども、希少な昆虫みたいなものも確認されているということなので、できるだけ今の環境で残せるものは残してほしいと企業側には伝えております。

○小林委員 崖地というのは、はげ下という意味でいいのですか。

○坂本主査 はけも含めて、崖地ですかね。

○小林委員 分かりました。細かくてすみませんでした。

○大橋会長 いいえ、併せて御意見はありますか。

○小林委員 ないです。

○大橋会長 御質問、御意見。（須山委員の挙手に対して）どうぞ。

○須山委員 ありがとうございます。2ページのアンケート結果なのですけれども、アンケートの結果、法令の制限があってというところが7社と伺ったのですが、（3）の土地利用規制に関する課題というのは、主にこの7社の課題と受け止めてよろしいですか。

○大橋会長 回答をお願いします。

○星野担当課長 アンケート結果を踏まえまして、（3）につきましては主に7社ということではなく、トータルいただいた御意見の中から、我々がこの方針を整理する上で抽出した課題ということになってございます。

○須山委員 分かりました。この7社の中にモデル地区になった2社も入っているということではございますでしょうか。

○星野担当課長 委員おっしゃるとおり、7社の中に2社は入っております。

○須山委員 ありがとうございます。そうしますと、様々な土地利用の活用について検討していかなければならない課題があると思うのですけれども、この2社につきましては主にどんな課題というのはお伺いできますか。（3）のところに様々な課題が抽出されているかと思うのですけれども、この2社の課題がどこに当たるのかというのは、ここに記載されていますか。

○星野担当課長 今回、モデル地区を2地区、多摩川6丁目、小島町3丁目は角川大映スタジオ周辺で、もう一地区が染地2丁目地区、日活調布撮影所周辺ということで、具体的に申し上げますと、7ページのほうにございますが、両方ともスタジオではあるのですけれども、角川大映スタジオにおかれましては事業を拡大した

いというお話があるのと、日活調布撮影所につきましても、先ほど説明にもありましたが、映画のまちの推進ということで、地域に開かれた施設ということで、例えばイベントですとかそういったものをやろうとしたときに、現在の規制上の課題があるというようなお話をヒアリングの中でいただいております。

○須山委員　では、そうした規制について、モデル地区を選定して今後検討していくと受け止めてよろしいですか。

○星野担当課長　そのとおりでございます。

○須山委員　分かりました。こちらの懇談会の結果概要等を見せていただくと、市が先頭に立って映画産業を推進してほしいというような御意見もありました。市の活性化のために、とても必要なことだと思いますし、また、反面、住民の日照権であるとか住みよさというのも守っていかなくてはいけないので、これから大変重要な検討になっていくかと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○大橋会長　御意見もありがとうございます。（丸田委員の挙手に対して）どうぞ。

○丸田委員　丸田です。

今の須山委員の関連なのですけれども、こちらの2社以外にも課題を抱えているという会社が映画関連は結構多いと思います。昨年でしたっけ、例えば東京現像所がなくなったりとかいろいろあると思うのです。7社のうちの2社以外の5社は課題を抱えていると思うのですけれども、この映画のまちの推進に向けた土地活用というのは今回の2社だけなのですが、それを踏まえて、ほかの5社に関してはそういった課題の対象にはならなかったということですか。それとも手が挙がらなかったということですか。

○大橋会長　いかがですか。

○星野担当課長　今回、アンケートを行いまして、それぞれから御意見をいただきまして、モデル地区としては今言った2事業者ではあるのですけれども、今回こういった形で土地利用方針を取りまとめまして、これをスタートとして考え方を整理して、これまでもそういった御相談はあったのですが、なかなかお応えする部分が多かったので、この方針を活用しながら、御相談をしながら一緒に検討してまいりたいと考えております。

○丸田委員　御答弁ありがとうございます。今回に関してはこの2社ということでございますけれども、この土地利用方針については、今後とも引き続きほかにも

発展して活用していくという考え方でよろしいと理解をさせていただきました。ありがとうございました。

○大橋会長　ほかに御質問、御意見。今のうちにいろいろな御意見ありましたら。御意見ありますか。（岡村委員の挙手に対して）どうぞ。

○岡村委員　岡村でございます。

大変いい取組だと認識しております。その上で、この資料は抜粋のものなのか、最終的なフルバージョンと考えてよろしいですか。まず、それを確認。

○星野担当課長　今回は4ページまでが取りまとめました土地利用方針の抜粋になっておりまして、実際、本冊はホームページとか、冊子にもなっております。もう少しボリュームがあって、映画のまちの取組の紹介ですとか、そういったものをもっと少し詳細に御説明させていただいております。

○岡村委員　分かりました。その上で、例えば用途を緩和するとか形態制限を緩和するとなったときに、どういう影響があるのかというのをしっかりと整理されたほうがいいかなと思っておりまして、今日拝見した資料だと、その関係性というのですか、こういうことを緩和したので、こうなり得るだろうという直接的な関係がやや分かりにくいかなという気がしたのです。全体としては、このように配慮しなければいけないとか、こういうことが大事だと書かれているのですけれども、緩和したことによってどういうことが起き得るだろうかというワンクッションが書かれていると、今後ほかの地域に展開していくときにも役に立つかなと思ったのですが、いかがですか。もちろん裏で検討されているのではないかと思ったので、資料としてこれが全てなのかと伺ったのはそういうところなののですけれども。

○大橋会長　いかがですか。

○星野担当課長　おっしゃるように、今回こちらで方針をつくりまして、基本的な考え方、技術的な方針みたいなものを固めまして、モデル地区を設定した上で、後ろにございますように、7ページ、8ページで、それらの手法を取った場合、どういう影響が出るですとか、そういった場合、どういう対応をしようかということにつきましては、懇談会ですとかオープンハウスとかを行いながら、近隣の方とかにも御意見をいただきながら、個々個別に整理をしてまいりたいと考えております。

○岡村委員　分かりました。7ページ、8ページを拝見しますと、個別の話になってしまうかなと思っておりまして、こういった個別ケースを積み上げていくことで全体に通じる方針は出てくるのかもしれないのですけれども、まずは今回、ケー

スタディーでやってみる段階だということですか。

○大橋会長 （東海林担当課長の挙手に対して）どうぞ。

○東海林担当課長 今、岡村委員にお話しいただいたように、今日お出ししているものについては、この場合だと角川さんですとか日活さんのところが具体的などいいますか、多分、委員がおっしゃったのは、配慮をする事項の前に、映画・映像関連産業を継続するには、こういった課題があって、こういった配慮が必要なのだというつながりの部分をもう少し出したほうがいいのではないかというお話かなと認識しています。

当然、バックデータでは、我々はそれも検討しているのですけれども、今後このモデル地区を具体的にやっていく場合には、例えばこういう配慮事項が必要な場合には、資料でいくと4ページの左上の7番、実現方策に書いてあるような用途の緩和をしていくのか、用途を変えずに特別用途を使っていくのかなど、都市計画手法をどう活用していくのか、その課題に応じてどういう手法を取ればいいのかというところは、そういう視点を持ちながら考えていく必要があると思いますので、今後そのような考えを持ちながら進めていきたいと考えております。

以上です。

○大橋会長 ありがとうございます。私からも2点だけよろしいでしょうか。

今、話に出まして、都市計画審議会なので、都市計画としてこういう地区をどのように考えるかという点からしますと、緩和をするためには、これだけの地域貢献だったり公共的な貢献がある、これだけ効果がありますということで初めて緩和の話が出てくるので、そこの部分が弱いというのが1つ。

もう一つ、映画産業自体が今後どうなっていくのかというのは、多分、映画会社さんのほうもまだはっきりした方向が出ていないのではないかと私のほうでは感じています。今、メタバースの世界だったり、イマーシブな世界だったりとか、単なる劇場で映画を見せるとか、つくるとかという方向から、Netflixですか、家庭でも映画を自由に見られるような時代になってきて、映画産業自体がそれに対してどういう方向に進んでいくのかというのが今見えていない中で、調布のまちづくりのテーマとして持った場合、その産業の発展の方向が見えないで、どういう映画産業だったら調布に成立するのかというような視点でもうちょっと御検討いただければというのが2つ目です。個人的な意見です。

ほかに御意見、御質問等ありましたら。

(「なし」の声あり)

では、報告第1号、これで終了いたしまして、報告第2号「緑ヶ丘二丁目地区地区計画の変更について」に移ります。御説明をお願いいたします。

○井出技師 報告第2号「緑ヶ丘二丁目地区地区計画の変更について」、御説明いたします。

表紙をおめくりいただきまして、右下ページ番号2ページ目、地区計画決定までの経緯でございます。

本地区は、調布市東部の緑ヶ丘2丁目に位置しております。昭和36年に仙川一団地の住宅施設として都市計画決定され建設された都営仙川アパートの老朽化が進み、都営仙川アパートの建て替え計画を契機として平成17年10月に仙川一団地の住宅施設を廃止し、周りの地区も一体と考え、一団地の住宅施設だった区域を含む緑ヶ丘2丁目地区、約32.6haに地区計画を決定しました。本日、机上には参考資料として、現行の地区計画図書を配付しております。既存の地区計画の詳細については、参考資料を御確認いただきたく存じます。

本地区の地区計画の目標の中では、「緑にあふれ、人にやさしいまち～みんなで育て、ともに育つまち～」をまちづくりのテーマとして掲げ、3つのまちづくり方針を基本に、豊かな緑を守るとともに、安心して暮らし続けられる快適な住環境を備えた市街地形成を目指すこととしております。

このたび都営住宅の建て替え計画がございまして、既存の地区整備計画区域の一部の変更を検討しております。その報告でございます。

次に、3ページ目でございます。既定の地区計画の内容です。図①のとおり、着色のある部分が地区整備計画区域、着色がされていない部分が地区整備計画未指定地区でございます。薄いだいたい色の区域が中高層住宅地区となっております。地区計画での土地利用の方針として、公園や広場などまとまったオープンスペースを生み出すとともに、敷地内の緑化を進め、周辺の低層住宅地や景観との調和にも配慮した建築物等を誘導する。また、南側区域については、仙川との親水性に配慮した土地利用を誘導し、ゆとりと潤いのある住宅地の形成を図るとしております。

青色の区域が住宅・関連施設地区でございます。土地利用の方針として、住宅を主体とした土地利用の誘導と併せて日常生活の快適性や利便性を確保するため、誰もが利用できる施設の誘導に努める。また、土地利用の方向性に合わせて周辺景観等との調和に配慮した適切な地区整備計画を定めるとともに、本地区の南側区域に

については、仙川との親水性に配慮した土地利用を誘導するとしております。

図②が地区施設の指定状況、右側の表が建築物等に関する事項でございます。中高層住宅地区と住宅・関連施設地区の主な違いは、建築物の敷地面積の最低限度と建築物の高さの最高限度があるかないかという点でございます。

1枚おめくりいただきまして、4ページ目でございます。現在検討しております地区整備計画の変更案でございます。図の青色の斜線の範囲が変更検討区域です。変更検討区域は現在、住宅・関連施設地区となっておりますが、都営緑ヶ丘2丁目団地建て替え事業の第5期計画が予定されております。このたび1期から4期の事業を実施しております中高層住宅地区と同じ土地利用を図ることから、図③のように地区の区分を変更しようとしているものです。

次に、地区施設についてです。5ページ目を御覧ください。変更検討区域のうち、西側に既に壁面の位置の制限が定まっておりますが、さらに敷地側に約100㎡の緑地4号を指定することを検討しております。本緑地については、西側の地区計画区域外が第一種低層住居専用地域でありますので、その配慮の点や仙川から大学やお寺などの緑を連続的につなげることを目的として本緑地を定めようとしているものです。既に定まっている区画道路や壁面の位置の制限などは特に変更する予定はございません。今回の地区計画の変更は、図の変更検討区域の部分のみと考えておりますが、本地区については今後考えられる検討事項がございますので、そちらの御報告もいたします。

1枚おめくりいただき6ページ目を御覧ください。時期は未定なのですが、今後の地区計画等の変更の検討内容です。まず、今回、変更を検討している部分以外の住宅・関連施設地区については、現在、東京都が仙川の洪水対策として調節池の整備を検討しております。この検討の進捗に応じて地区整備計画の変更などを検討してまいります。

次に、都市計画道路調布3・4・17号線につきましては、平成28年に事業認可されまして、令和10年度末までを事業期間としております。こちらの整備の進捗に応じて、地区整備計画の未指定地区については、地区整備計画区域の指定や沿道の用途地域の変更、地区施設などについて検討してまいります。

最後に、地区整備計画の未指定地区については、市として住民発意のまちづくりを推進していることから、住民のまちづくりの機運や地域の合意形成の状況に応じて地区整備計画を定めることについて検討してまいります。

最後に、今後のスケジュールについてです。7ページ目を御覧ください。まず、10月をめどに今回の地区計画の変更についてまちづくり懇談会を実施いたします。11月頃に都市計画法第16条の縦覧や原案説明会、年明け令和7年1月に17条縦覧、令和7年2月に都市計画審議会に付議し、都市計画変更をしたいと考えております。

東京都のスケジュールもあくまで予定ではございますが、都市計画変更後から街づくり条例の процедуруを実施していくことを想定しております。

報告第2号の説明としては以上でございます。

○大橋会長 ありがとうございます。御質問等がある方は挙手をお願いいたします。よろしいですか。

(「なし」の声あり)

では、報告第2号は終了いたします。

報告第3号に移りたいと思います。

○事務局(吉池) 担当者を入れ替えさせていただきます。

(担当者入替え)

○大橋会長 報告第3号「多摩川住宅地区地区計画の変更について」、御説明をお願いします。よろしくをお願いします。

○東海林担当課長 まちづくり推進課の東海林でございます。よろしくをお願いいたします。

○山崎係長 まちづくり推進課の山崎といたします。よろしくをお願いします。

○権平主事 同じく、まちづくり推進課の権平と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、私から報告第3号「多摩川住宅地区地区計画の変更について」、御説明いたします。ページをめくっていただいて、スライド2ページをお願いいたします。

まず初めに、多摩川住宅地区の概要について御説明をいたします。多摩川住宅地区地区計画の区域ですが、図面の赤枠の区域となります。調布市域の南側、調布市染地3丁目と狛江市西和泉及び中和泉に位置しており、面積は約48.9haの団地となっております。

続いて、3ページをお願いいたします。多摩川住宅のまちづくりの経過についてですが、多摩川住宅は昭和40年代、一団地の住宅施設として建設をされました。

建設から50年以上経過し、建物の老朽化に伴う防災性の低下や地区内の高齢化率の上昇などが顕在化し、地区のにぎわいや活力の低下が課題となっております。

そのため平成29年9月に一団地の住宅施設を廃止し、地区計画への移行をいたしました。地区計画では、本地区の特殊性を考慮し、各街区の建て替えの熟度に応じて計画的かつ段階的に地区計画の見直しを行うこととしております。

次に、ページをめくっていただいて4ページをお願いいたします。続いて、多摩川住宅の土地利用の方針について御説明いたします。本地区では7つの土地利用の方針を定めており、今回はハ号棟街区の住宅再生A地区において、建て替えの熟度が高まったため、地区計画の見直しを予定しております。

続いて、5ページをお願いいたします。地区計画の変更の概要について御説明いたします。今回の地区計画変更の対象区域は、赤塗りでお示ししている多摩川住宅ハ号棟街区の部分となります。今回、建て替えの熟度が高まったことから、地区施設の変更及び壁面位置の制限の見直しを行います。

めくっていただいて6ページをお願いいたします。今回の地区計画の変更の必要性についてですが、地区計画を決定した当初、ひろば空間の確保とネットワークを形成するという空間形成の基本計画を維持しつつ、近年のまちづくり動向等を踏まえ、多様な世代が共生する暮らしを支える地域活動の場、それから緑豊かな環境を備えた魅力とにぎわいのある交流の場となるように、空間形成に関連する地区施設の変更を検討し魅力ある住環境の維持向上を図るために、今回変更を行ってまいります。

次に、7ページをお願いいたします。多摩川住宅地区の地区計画における地区施設の整備の方針について御説明いたします。多摩川住宅の地区計画の中で、地区施設の整備の方針を定めておりまして、1つ目が、地区内の道路については、原則的に区画道路に位置づけ、適切に機能の維持保全を図ること、2つ目に、公園については、地区中央に市民の運動、健康増進活動等に寄与するよう適切な規模の公園を整備すること、3つ目に、緑地については、地区外周に適切に配置して維持保全し、緑の沿道景観を確保すること、4つ目に、その他の公共空地については、地区内に適切に配置、整備をすること、以上の4点を整備方針として置いております。

ページめくっていただいて8ページをお願いいたします。ただいま御説明いたしました空間形成の基本方針や地区施設の整備の方針を踏まえ、魅力ある住環境の維持向上を図るため、今回、多摩川住宅ハ号棟街区においては、地区施設の変更と壁

面位置の制限の見直しの2点を行いたいと考えております。

続いて、9ページをお願いいたします。まず、1点目の地区施設の変更についてでございます。ハ号棟街区の地区公園、調7号は、隣接する幼稚園との連携が可能となるよう、幼稚園側に近づける配置といたします。

また、地区広場の調8号とポケット広場の調3号は、にぎわい軸周辺に寄せることで、防災機能の強化や生活拠点地区の地区広場である地区広場4号とのにぎわいの連携を強化します。地区広場4号なのですけれども、今回、図上切れてしまっており大変申し訳ありませんが、図面でいいますと一番右側でございます縦横の格子柄の場所が地区広場4号になっております。こちらの広場4号との連携を強化し、地区全体の活性化に寄与するよう変更をいたします。あわせてコミュニティ街路、真ん中を通っております調7号の線形を地区広場8号とポケット広場の3号の移動に合わせて一部形状を変更する予定でございます。

続いて、10ページをお願いいたします。本日、机上配布しております差し替え資料を御覧いただければと思うのですけれども、地区施設変更前後の配置図を重ねた図面となっております。青い線で移動後と書いてあるところが今回変更を予定している施設の位置となっております。

続いて、11ページをお願いいたします。2点目の変更点、壁面位置の制限の見直しについてでございます。現在、ハ号棟街区の中心を斜めに通っているコミュニティ街路沿いに5号壁面がコミュニティ街路両側に設定されております。5号壁面は地区施設の境界線から2m以上後退という制限があります。今回、5号壁面を削除することでコミュニティ街路上部に住戸を乗せることができるようになり、敷地中央付近のボリュームが増します。これによって敷地周囲の住戸が減ることによって、街区周辺の道路や建物への圧迫感の軽減、近隣への日影の緩和が可能となるほか、コミュニティ街路自体を拡幅することで回遊性及び防災性の機能向上を図ることができるため、今回、5号壁面を削除する方向で検討を進めております。

5号壁面削除に当たり、もともとの街路の幅員を担保するため、コミュニティ街路を4mから8mに拡幅する予定でございます。また、コミュニティ街路の拡幅に伴い、地区施設が重ならないよう、現在、資料の紫の文字で記載しております広場や公園等の形状も併せて変更する予定でございます。

なお、この地区施設の変更によって面積に変更は生じません。変更前後の地区施設の一覧を参考資料として、本日、机上配付しておりますので、後ほどこちらも確

認していただければと思います。

最後に、12ページになりますが、今後のスケジュールについて御説明いたします。本日の都市計画審議会の後、資料ではまちづくり懇談会が記載されておりますが、狛江市と調布市、あとは地元の街づくり協議会とも相談いたしまして、今回は軽微な変更のため実施しないこととなりました。資料送付時には、まだ地元の街づくり協議会との調整ができていなかったため、調整中という表記になっておりますが、今回は実施しないということで話をしております。

そのため、今回の審議会で御報告した後、11月頃に16条の原案の告示、縦覧を行う予定となっております。その後、12月の都市計画審議会にて御報告をさせていただき、次に17条の告示、縦覧をした後、令和7年2月の都市計画審議会にて付議をする予定となっております。

説明は以上となります。

○大橋会長 (東海林担当課長の挙手に対して) どうぞ。

○東海林担当課長 1点、補足をさせていただきます。12ページのスケジュールになりますが、今、担当から懇談会を開催しないという説明をさせていただきました。懇談会形式では説明はしませんが、今、多摩川住宅地区街づくり協議会という地元の組織がございますが、全街区の役員が集まる場がありますので、その中で今回の都市計画の変更内容について御説明、御報告をした後に、ここに記載のとおり法定の手続に入っていきたいと考えております。

補足は以上となります。

○大橋会長 ありがとうございます。御質問、御意見ありましたらお願いいたします。(青山委員の挙手に対して) どうぞ。

○青山委員 今回の多摩川住宅地区の地区計画というのは、調布と狛江両方が入っているかと思えます。一方で、ハ号棟というのは調布市内だけのものであるのかなと認識しているのですけれども、今回は狛江市とは特に協議とかはしなくても何とかなるような話なのか、あるいは、どこかで話し合いをしなければいけないのか、その辺りのところを教えてくださいませんか。

○大橋会長 (東海林担当課長の挙手に対して) どうぞ。

○東海林担当課長 今、青山委員からいただきました狛江市と調布市ともに同じ地区計画をつくっております。今回、都市計画審議会で報告するに当たっても狛江市さんとも協議を重ねているところで、同様の内容の御説明をしていただいている

ところになります。

ただ、今回、ハ号棟街区が調布市域になりますので、地区計画の変更の内容検討ですとか、その辺りの検討主体は調布市となりますけれども、狛江市と情報共有しながら、先ほど12ページでスケジュールを御説明しましたが、都市計画審議会を同日開催というところまで一致はしませんが、同じようなスケジュールで、要は説明会をする場合にも調布市、狛江市両市で説明をしていくという進め方を考えております。

以上です。

○青山委員 よく分かりました。ありがとうございます。

○大橋会長 ほかに御質問。（大野委員の挙手に対して）どうぞ。

○大野委員 この中の通路というのですか、壁面後退をさせるコミュニティ街路というのがあるのですけれども、それを拡幅するというのは非常にいいと思うのですが、全体的にハ号棟の周りの道路に対する拡幅とかはどのような感じなのでしょう。

○大橋会長 （東海林担当課長の挙手に対して）どうぞ。

○東海林担当課長 今いただいた御意見の中で、コミュニティ街路はハ号棟街区の道路だと思えますが、例えば全体像が分かる6ページを御覧いただくと、かなり大きな街区になっています。今、ハ号棟街区という赤い破線がしてある周辺が一番東側、にぎわい軸の形成と書いてあるところは染地通りでして、これは都市計画道路になっていたりしますので、周辺が都市計画道路であればその道路の計画に沿って適宜進めていくと考えていますが、今、地区計画の中では、その街区の中の歩行者空間ですとか歩行者ネットワークなどの観点で、ハ号棟街区以外でもコミュニティ街路は設置していますので、いわゆる道路拡幅ということではなくて、この街区の中で歩行者の方が主に通れるような街路をつくっていくというような認識を持っていただければと考えております。

以上です。

○大野委員 そうすると、道路の拡幅というのはまた別のものであって、ハ号棟の地区全体で見て少し広がったりするのかなと思ったのです。例えば、ハ号棟から土地を提供して道路にしていくとか、そんな考え方とかはあるのかなと思ったので聞いたのですが、そういうわけではないということですか。

○東海林担当課長 今委員おっしゃるとおり、提供していただくというよりは、

あくまでもハ号棟街区で開発をしていく中で、敷地の中で建物を建てる場所もあれば、このような地区施設を設置していただくということで、最終的には管理組合さんのものになると思いますけれども、市が持つということではないと認識してございます。

以上です。

○大野委員 分かりました。ありがとうございます。

○大橋会長 ほかに御質問、御意見ございますか。（小林委員の挙手に対して）どうぞ。

○小林委員 ちょっと視点が違うコメントなのですが、この資料は最初に対象地があって、3ページ目で課題があってと実に分かりやすい資料だと私は思っています。こうした分かりやすい資料を御用意いただくと委員会の運営もうまくいくし、それから、事前に郵送でいただいても読んで分かる資料だとありがたいです。

例えば、その次の資料も冒頭に本日の報告趣旨といきなり書いてあるので、こういうことかと1枚読んだだけで結構頭に入る。このように読み手のことを考えていただいた資料づくり、本当にありがたいと思いますので、感謝します。

○大橋会長 だんだん資料も練られてきたかと思しますので、今後とも続けていただくようお願いいたします。御意見ありがとうございます。

ほかに御質問等ありませんか。

（「なし」の声あり）

それでは、報告第3号を終了しまして、報告第4号に行きたいと思います。

○事務局（吉池） 担当者を入れ替えさせていただきます。

（説明者入替え）

○大橋会長 報告第4号「調布都市計画道路3・4・31号西調布南口線の都市計画変更の検討状況について」、まちづくり推進課から御説明をお願いいたします。

○山本担当課長補佐 まちづくり推進課の山本です。よろしくお願いいたします。

○中澤係長 まちづくり推進課の中澤です。よろしくお願いいたします。

○福島主任 まちづくり推進課の福島と申します。よろしくお願いいたします。

○中澤係長 それでは、報告第4号「調布都市計画道路3・4・31号西調布南口線の都市計画変更の検討状況について」、御説明いたします。

本日、一部のスライドについて事前に送付している資料からの差し替えがござい

ます。右上に差し替えという記載がございます。説明の中でまたお話ししたいと思
います。

それでは、2ページを御覧ください。本日の報告の趣旨は、調布都市計画道路
3・4・31号西調布南口線の都市計画変更の検討状況について説明させていただ
くものです。

3ページを御覧ください。初めに、路線の概要を御説明いたします。

4ページを御覧ください。調布都市計画道路3・4・31号西調布南口線の概要
についてですけれども、本路線は昭和37年12月に都市計画決定された都市計画
道路であり、上石原2丁目を起点とし、多摩川1丁目を終点とする延長約650m、
幅員16mの都市計画道路です。

なお、起点付近に約2,000㎡の交通広場の計画がございます。

5ページを御覧ください。次に、調布3・4・31号線の位置についてです。本
路線は地図の赤色で示しているとおおり、西調布駅から調布3・4・4号線に至る都
市計画道路です。

6ページを御覧ください。西調布駅周辺の都市計画の状況について御説明いたし
ます。

7ページを御覧ください。こちらが差し替え資料になります。西調布駅周辺の都
市計画道路の整備状況についてです。調布3・4・31号線は全区間未整備となっ
ております。こちらの図のピンク色の箇所が、調布市道路網計画において令和7年
度までに整備または着手する優先整備路線として位置づけている箇所ございま
す。また、緑色の区間は優先整備路線の次に整備または着手する準優先整備路線として
位置づけている箇所でございます。

8ページ目も差し替えになります。8ページ目を御覧ください。駅周辺の都市計
画の状況についてです。西調布駅周辺は南北ともに道路沿いが近隣商業地域となっ
ており、駅南の調布3・4・31号線側は建蔽率が80%、容積率200%となっ
ております。

また、西調布駅周辺の青色のドットの箇所が地区計画区域となっており、駅北側
の青色斜線のエリアが地区整備計画区域となっております。

9ページを御覧ください。都市計画マスタープランにおける将来都市構造につい
てです。西調布駅周辺を含む西部地域においては、西調布駅、飛田給駅を地域拠点
として位置づけています。

10ページを御覧ください。続いて、土地利用方針の位置づけについてです。図の赤い四角が西調布駅付近となります。西調布駅の南北については、おおむね都市計画道路に沿って業務・商業等複合地域となっております。

11ページを御覧ください。続いて、都市計画マスタープランでの西部地域のまちづくりの方針についてです。こちらについては目標、基本的な考え方ともに記載のとおりとなっております。

12ページを御覧ください。都市計画変更の検討状況について御説明いたします。

13ページを御覧ください。本路線の都市計画変更の検討内容について御説明いたします。まず、都市計画変更の検討に至る経緯についてです。西調布駅周辺では、平成23年度に橋上駅舎化し、平成28年度には北側交通広場を含む調布3・4・32号線が完成しており、また、西調布駅は平成13年3月開業の味の素スタジアムへのアクセス駅の1つとなっています。

このように、昭和37年の都市計画決定以降、駅を含む周辺の交通環境は地域の拠点として機能向上が図られるとともに、人の流れも大きく変化しています。

こうしたことから、調布3・4・31号線については、周辺道路と連携した歩行者等のネットワークを形成し、交通結節機能の向上を図るとともに、道路空間を有効活用したオープンスペースとして、ゆとりある空間の創出を図るため、路線の延長、交通広場の面積、車線の数の3点について、都市計画変更を検討しています。

14ページを御覧ください。14ページは差し替えになります。都市計画線の変更イメージを示した図がこちらになります。黒い破線が現都市計画線、赤線が都市計画線の変更イメージ、青い矢印が車両動線を示しております。検討に当たっては、バスなどの車両におけるロータリー内の通行空間の確保や安全かつ快適な歩行空間の確保を前提として交通広場の配置を検討しました。その結果、交通広場が2,000㎡から2,100㎡に広がり、都市計画線を南側に押す形での変更をイメージしております。

また、駅前広場の完成イメージとしては、右下の整備事例にあります西調布駅北口や飛田給駅南口のようなロータリーを想定しております。

15ページを御覧ください。続いて、これまでに実施してきた市民参加の取組について御説明いたします。

16ページを御覧ください。令和5年7月に西調布駅前にて実施したまちづくりの方針についてのオープンハウスでお知らせした内容です。このオープンハウスで

は、都市計画の検討状況について、今後オープンハウス等で共有させていただく旨をお知らせしました。

こちらに記載はございませんが、令和6年8月2日、3日には、その後の進捗状況をお知らせするオープンハウスを開催しております。結果としましては、2日間で60名の方に御来場いただき、主な意見としては駅南側の歩道が狭い、道路整備を早く進めてほしいなどの御意見がございました。

17ページを御覧ください。最後に、これまでの取組と今後の流れについて御説明いたします。

18ページを御覧ください。これまで令和4年9月には事業概要及び測量作業の説明を行い、その後、測量作業等を進めてまいりました。令和5年7月にまちづくりの方針についてのオープンハウスを実施し、令和6年8月2日、3日に都市計画の検討についてのオープンハウス第1回目を実施いたしました。

今後につきましては、秋頃に都市計画の検討についてのオープンハウス第2回目を実施した後、都市計画変更の素案説明や公告、縦覧、都市計画審議会の付議を経て、都市計画決定といった流れとなります。都市計画の決定まではオープンハウスや素案説明、都市計画変更案の公告、縦覧等で市民の皆様からの御意見を丁寧に伺いながら進めてまいります。

以上で報告第4号「調布都市計画道路3・4・31号西調布南口線の都市計画変更の検討状況について」の御報告を終わります。ありがとうございました。

○大橋会長 ありがとうございます。御質問、御意見ございますでしょうか。御説明でよろしいですか。

(「なし」の声あり)

ないみたいですので、それでは報告第4号はこれで終了ということにします。ありがとうございました。

以上で本日の審議会の案件は全て終了いたしました。

最後に、議事録の署名ですが、今回は輪番制によりまして須山委員になっておりますので、よろしく願いいたします。

委員の皆様から何か御意見、御質問等ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

(「なし」の声あり)

ないようでしたら事務局から。

○事務局(吉池) 次回の開催予定でございますが、第2回は12月を予定して

おります。日程が決定いたしましたら御連絡させていただきますので、よろしくお願いたします。

また、毎回の御案内になりますが、机上に配付した資料のうち、調布市都市計画マスタープラン・立地適正化計画、都市計画図、調布市用途地域等に関する指定方針及び指定基準については、お持ち帰りにならないようお願いいたします。

以上でございます。

○大橋会長 議事の進行につきましては、今日、いろいろと御協力いただきましてありがとうございました。予定時間ちょっとしか過ぎなかったもので、よかったです。

これをもちまして、令和6年度第1回調布市都市計画審議会を終了いたします。長時間ありがとうございました。

——了——